



LEADER'S VOICE B病棟 副主任 宮城真弓
 医局便り 和の心 いただきます (腎臓内科 江田はるか)
 特集記事 2019年度 第1回 八重瀬会研究発表会
 セクションたより 入退院支援センター

2019
 5月

広報 vol.243

「正確な診断」「適切な治療」「良質な対応」

医療法人 八重瀬会
 同仁病院

創立100周年 これからも地域と共に



2019年度 新入職員オリエンテーション&レセプション開催

平成31年4月、平成最後の今年も、八重瀬会に約60名の新入職員が入職しました。

4月1日(月)、2日(火)の2日間に渡り、八重瀬会の概要や各科の役割等を学ぶ座学や、新入職員同士の仲間意識を深める為のワールドカフェ、また今年3月にオープンした「やえせAG」への見学や、八重瀬会トータルアドバイザーによるコミュニケーショントレーニング等をしつかり勉強しました。

オリエンテーションの最後には、理事長・院長より、八重瀬会と100年続く同仁病院の歴史、職員への熱い思いを語って頂き参加者全員、真剣な表情で聞き入っていました。

2日目の夜には、新入職員と各所属長とのレセプションも行われ、美味しい料理とお酒で更に交流を深めました。

新入職員のみならず！これから八重瀬会の一員として一緒に頑張っていくようにしましょう！！

◆私は、同仁病院で約4年間、医事課の派遣社員として勤務していましたが、今年度から正職員として入職させて頂き、春季新入職員オリエンテーションに参加しました。

今までは、他部署がどのような業務をしているか、詳しくは知りませんでした。講義を通して、各部署の役割や、やえせAGの見学等、勉強になりました。山内院長の講話では、八重瀬

会の歴史や秘話など貴重なお話を聞くことができ、同仁病院は、たくさんの方が活躍しているんだと感じることができました。

八重瀬会トータルアドバイザーの安部さんの講義では、接遇の基礎となるコミュニケーショントレーニングを行いました。私は今までの業務の中で、相手にどのように伝わるのか、どのようにしたらわかりやすいかを大事にしてきたつもりでしたが、まだまだ未熟だと気づかされました。

私が配属された企画室でも、他部署や院外の方と多く携わる部署ですので、コミュニケーション能力が必要です。イベントや会議など、周りの意見を聞き、一つにまとめていく大事なポジションだと思っています。

私はこれからも、コミュニケーション能力の向上を目指し、八重瀬会の一員として戦力になれるよう頑張りたいと思います。

【企画戦略部 企画室 伊波夏希】





子供たちから学んだこと

私には、高校生・中学生・小学生・5歳・2歳の5人の子供がいます。
とても賑やかですが、とても大変です。
その中で、子供たちから学んだことがあります。

それは、『認める』ということです。

私は、常に子供の活躍を期待し、その期待からダメだしの言葉が多くなってきていました。

長男は、小さい頃から父親の影響で野球を始め、今も高校球児として頑張っています。
私もまた、中・高とソフトボールをしていたからか、野球に対して人一倍厳しい目で見えてきました。
実際、息子が試合の中ですごいプレーをしてもそれを褒めず、できなかったことを先に問いただしていました。

そんな会話をしている時、4番目の子が「お兄ちゃん、あの時すごかったよね！打ったよね！」「お兄ちゃん、あの時アウトにしてたよね！」と会話に入ってきたんです。その時私はふと思いました。

いつから認めてあげなくなっただろう、と。

『相手を認めて、それを伝えてあげる』常に意識していたつもりでしたが、子供たちに対して全くできていなかったと反省しました。下の子たちでさえ、お兄ちゃんのプレーはすごかったと認めていたのに、私は欠点ばかりを探していました。その子の欠点ばかりを指摘していたら、頑張っている本人たちのやる気は下がっていく一方です。自分が出来ていたから、相手もできるとは限らないんですよね。下の子たちには「すごい！」と言ってあげていたのに、長男には言ってあげてないと気付かされました。

最高のパフォーマンスが発揮できるかは本人の力も必要ですが、その人を認めてサポートをしていくことも大事だと思います。それは、職場であっても家庭であっても同じだと思います。そして、サポートしてもらった側は感謝の気持ちを忘れないでほしいと思います。

長男が、欠点だけ指摘してくる私に感謝しているかは分かりませんが、高校入学時に「甲子園に行こうね。」と言った言葉を信じて、そして私自身もサポートされているんだと感謝をして子供たちを精一杯応援していきたいと思っています。



第20回 沖縄県理学療法学会 優秀賞受賞



◆令和元年5月18日・19日に沖縄県理学療法学会が読谷村文化センターで開催されました。当院の立津統部長が大会長をつとめ、多くの職員が発表・運営に携わりました。

今回私は、『人工膝関節単顆置換術患者における早期歩行獲得に影響する運動機能の検討』というテーマで優秀演題に選んで頂き、多くの方の前で発表させて頂きました。他院の経験豊富なセラピストからの質問やアドバイスをいただき多くの課題が見つかり、貴重な経験をさせていただきました。

また研究を進めていく過程で、ご指導して頂いた山内裕樹先生、リハビリテーション科の先輩方に心より感謝します。

今回の研究を継続してより患者さんの為に貢献できる研究を続けていきたいと思えます。

【リハビリテーション科 理学療法士 金城拓海】

腰痛予防教室を開催

◆当院リハビリテーション科では、年3回、職員を対象に『腰痛予防教室』を開催しています。

誰もが経験する『腰痛』ですが、厚生労働省より『休業4日以上の職業疾病のうち6割を腰痛が占めており、全労働災害の約6割を占めている』との調査結果が発表されています。

さらに、腰痛になりやすい職業として1位に「介護系」、2位には「看護系」が挙げられており、介護・医療職が上位を占めています。

当院でも腰痛に悩んでいる職員が多く、腰痛予防に役立つ運動を記載した資料と照らし合わせながら、実際に実技を中心に行ないました。

特に腰痛予防で重要となってくるストレッチ・筋力トレーニングの方法を指導しました。腰痛を持っている人ほど体が硬くなっている印象があり、参加された職員からもストレッチの重要性を感じたとお話をいただきました。

今後も職員の腰痛ゼロに向け、運動のプロとしてお手伝いをしていきたいと思えます。

【リハビリテーション科 理学療法士 山田わかな】



トランスファー講習会を開催



◆去る4月6日(土)に当院看護師の新人職員を対象としたトランスファー講習会を開催しました。

講習会では患者さんをベッドや車いすに移乗する際の介助方法や注意点、介助する側の身体の使い方等を紹介しました。

新入職員は2人1組になり、1人は患者さんの役、もう1人は介助者の役として実践し介助方法を確かめながら真剣に取り組んでいました。

トランスファーは患者さんが生活するなかでトイレやお風呂に入る、目的地まで移動する際等にとっても大事なものです。

その生活の中で患者さんが安心、安全に過ごしていくために新入職員だけではなく私も日々勉強していきたいと思えます。

【リハビリテーション科 理学療法士 恩河匠】



『和の心 いただきます』



腎臓内科 江田はるか

ハイタイ グスーヨー チューウガナビラ。はじめまして、内科医をしております江田はるかです。
この度、腎臓内科として4月より赴任しました。よろしくお願いいたします。

少し私の生い立ちをお話しさせていただきます。

私は父の仕事のため東京・香港・北京・広島と幼少期はほとんど毎年のように引っ越しをしておりました。小学校2年生から高校3年まで千葉で育ちましたが、以前から暖かくて海の近くに住みたいと思っていたので琉球大学を受験することに決めました。卒業後1年間フィジーとオーストラリアでひとしきり遊んでから日本に帰国、その後医師として働き始め琉球大学に1年間、県立宮古病院に2年間、東京都台東区の永寿総合病院で2年間働きました。もともと5年間働いたら一回休もうと思っていたので、2018年度は、台湾に在住しながら月に一回日本に短期の仕事をしに帰ったり、世界のどこかにサーフィンをしに行ったりという生活を送っていました。引っ越しが趣味なのかと思うぐらい転々としており、まだ本当にどこに定住したいのか決まっていなような風の人なのですが、自分のキャリアを考えたときに腎臓と透析の専門医を取りたいと思い立ち、しばらく真面目に勉強しようと考え、大好きな沖縄に戻ってまいりました。

このような生活を送っていたので外国の友達も多く、アメリカ人・台湾人・ブラジル人・コロンビア人・オーストラリア人・スペイン人・オランダ人・ドイツ人・イタリア人・韓国人・インドネシア人・フィジー人・カナダ人・ロシア人・オーストリア人などの友達があり、今も仲良くさせていただいています。

みなさんもそうだと思いますが、私は、一人の時も大勢にいるときも、日本にいるときも海外にいるときもご飯を食べる前に『いただきます』、食事が終わった後『ごちそうさまでした』と手を合わせて言うことにしています。外国の方と食事をする際も同様にしていますが、必ずと言っていいほど「なんて言ったの?」「それってどうゆう意味?」と聞かれます。『いただきます』も『ごちそうさま』も直訳できる英語の単語はないので『ごはんがたべられることに、食事を作ってくれた人に、食材を作ってくれた人に、すべてのことに対する感謝の気持ちを表現した言葉です』と説明しています。海外に多く行くようになってこの言葉の意味を説明する機会がすごく多く、海外の友達に説明するたびにいい意味だね、いい習慣だね、自分も言うようにするね、と言って片言の日本語で『いただきます、ごちそうさま』を言うことが多く、説明しながら自分でもいい言葉だなーと毎回思います。

日本人のすべてのことに感謝しながら生きる姿勢がその言葉に詰まっているような気がして、説明するたびに日本人であることを誇らしく思います。海外に計5～6年住んでいましたし、今後もどこか波がすごく良くて住みやすい場所があれば海外に移住したいと考えていますが、それでも日本が一番好きな国ですし、世界中の人に日本を好きになってもらいたいと思っています。

日々感謝の気持ちを忘れずに患者さんのために、病院のために頑張っていきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

本当は腎臓の話をしようと思っていたのですが前置きが長くなりすぎてしまってその話ができなくなってしまったので、腎臓がどんなに興味深い臓器かはまた次回☆

第1回 八重瀬会研究発表会



開催日：令和元年5月21日(火)
 場 所：同仁病院内 ティーダホール
 座 長：赤嶺良光 先生

- ・腎センター 西江昂平
 「コンソール新規設置が水質検査に与える影響」
- ・リハビリテーション科 眞喜屋佳恵
 「舌小帯短縮症による構音障害の検証」
- ・中材/手術室 福原容子
 「泌尿器手術における碎石位での体圧の現状調査」

部署や専門の枠組みを越え、より質の高い医療・介護を提供するために、毎年度4回開催している八重瀬会研究発表会の今年度第1回を開催しました。

◆腎センターの発表は、透析器の専門的な内容で少し難しい部分もありましたが、透析に使用する水の清浄度の重要性や患者さんが安全に透析を受けられるようにするための日々のメンテナンスの重要性を学ぶことができました。

リハビリテーション科の発表では、舌小帯形成術を受けた子供たちの術後のリハビリの成果を知ることができ、手術室看護師としてとても興味深い内容でした。

最後はわたしが所属する手術室の発表で、今回は手術時の体圧についての発表でした。手術室看護師は麻酔で意識がない患者さんの代弁者の役割もある中で、手術が終わった後に患者さんが関節や腰部などに痛みを感じないよう、患者さんに合った体位の工夫や手術中の除圧を先生方と相談しながらこれからも継続していきたいと思えます。

【手術室 城間愛梨】

◆今回の八重瀬会研究発表会にあたって、腎センターのテーマが数年に一度あるかないかの機械設置に関する内容だったので、その時の記憶や記録をもとに考察しなければならぬ事に難しさを感じました。

次の南新館の機械設置の際には今回の研究を活かしたいと思っています。

そして手術室とリハビリテーション科の発表では専門知識が無い私でも理解でき、素晴らしい研究内容で大変勉強になりました。

研究発表会で他部署がどのような事を研究しているのかを共有する事で、より一層今後の研究に身が引き締まる思いがしました。

演者の方、共同演者の皆様お疲れ様でした。

【腎センター 具志堅 靖】

TOPICS

北部看護学校 就職説明会に参加

令和元年5月24日、名護市にある北部看護学校にて2～3年生を対象に就職説明会が行われました。

当法人の訪問看護ステーションぐしくまにて北部看護学校より実習生を毎年受け入れている実績もあるため34名もの看護学生が説明を聞いていかれました。

看護学生からは「同仁病院って初めて知りました。」「病院の見学をしてみたいです。」等の声がありました。これを機会に同仁病院を更に知っていただけたらと思います。

近い将来、またお会いできることを大変楽しみにしております！

↓鋭い質問に丁寧に答える看護部長代理の照屋。



↑真剣な眼差しに触発され、説明にも熱が入ります。





スタッフ紹介

<写真 前列左から>

リハビリテーション科：立津部長、入退院支援センター長：山内(裕)医師、副センター長：粟國医師、薬務室参与：山内(ヒ)

<写真 後列左から>

看護部：照屋部長代理、MSW：西平、ドクターズクラーク：前原主任、医事課：田仲、副センター長：東濱主任、副センター長：鳩間主任、地域医療連携室：宇良部長代理、看護師：大城、医事課：玉城副主任

『健康とはただ単に病気や虚弱でないというだけでなく、身体的・精神的・社会的に完全に良好な状態をいう～』

看護学生だった頃、テストの最終問題に『WHOが提唱する健康の定義とは?』とありました。それを完璧に暗記していた私は、得意気に記入し見事満点をとったことを覚えています。

しかし、この『健康の定義』を果たすことが、どれほど難しいものか看護師になって数十年経った今でも、痛感する毎日です。

平成31年4月1日より、新しく『入退院支援センター』が開設されました。入退院支援センターは、入院となる患者さんが治療や療養を安心して受けられ、早期に住み慣れた地域での生活が継続して過ごされるよう、専任看護師をはじめ、様々な専門職が連携して、入院前から退院後まで切れ目のない支援の提供を目的とした部署です。

入退院支援センターに来る患者さんは『入院』という共通点を除けば、その様子・背景は様々です。まだ自分の病気を受容できず、呆然もしくはピリピリしている患者さん、手術後、職場復帰が可能なのが不安を感じている患者さん、高齢一人暮らしで、家族は県外在住の患者さん…みなさんそれぞれ、たくさんの健康問題を抱えています。

私たち入退院支援センターは、そのような『患者さんの健康とは?』を常に考え、身体的にも精神的にも、そして社会的にも患者さんに寄り添える存在でありたいと思います。そして、患者さんが退院後も問題なく生活ができるよう、地域に根ざした同仁病院入退院支援センターを目指します。

【副センター長 東濱幸恵】

主な業務

外来

患者さんが安心・安全な入院生活を送れるよう支援しています。
 *患者さんの情報を入院前に把握
 *入院中の治療・検査内容の説明
 *入院生活のご案内
 *入院生活における不安や疑問などの相談(退院を見据えた相談や支援)



入院

安全に治療を受けられるよう、患者さんの病状に適した病床の調整を行います。
 *適切な治療、看護、リハビリ等
 *療養先のご相談
 *介護保険制度に関する相談
 *ご自宅での医療処置や医療機器に関する相談



退院・外来

退院後も患者さんの安心を大切にします。
 *状態により退院後訪問
 *かかりつけ医、訪問看護、訪問リハビリテーション、ホームヘルパー、福祉用具などのご相談

その他、医療費に関するご相談や療養先の生活のご相談、かかりつけ医の紹介、各種申請の手続きなどにも対応します。



お問合せ：098-826-2212 (内線：727)

研修修了者

◇ドライビングセラピストA区分研修 修了(ブロンズ認定証)
 (日本身体障運動者支援機構主催 平成31年4月20日/会場：沖縄県)
 上間 瑠璃/本田 秀禎

◇歯科医師臨床研修指導歯科医講習会 修了
 (厚生労働省医政局 令和元年5月18日)
 圓谷 智之



『ドライビングセラピスト』ってなに?

病気や障害のある方が自動車免許を取得する、または受傷後に運転を再開する際に必要となる『自動車運転リハビリ』について、基礎知識や臨床の実際を様々な分野で実践的な活動をされている専門家の方々から学ぶセミナーを受講した医療従事者等に与えられる民間認定資格です。

歯科衛生士を病棟に配置



◆ 歯科・口腔外科には現在、歯科衛生士4名が在籍し、外来と病棟を分担して勤務しております。

病棟勤務につきましては、2019年5月より歯科衛生士が常駐し、お口の中の困りごとがあれば病室に伺い、相談を受けております。

その際に、必要に応じて、歯科または口腔外科外来の受診を勧めたり、御自身でブラッシングが難しい方のお手伝いとして口腔ケアを行っております。

お口の中で悩んでいる方がおられましたら、小さな疑問でも病棟にいる歯科衛生士にお気軽に、お声掛けください。

担当衛生士が病室まで伺います！

ご相談、お待ちしております。

【歯科衛生士一同】



大好評放送中

て〜げ〜ドクターK

FMLキオ (80.6MHz)

毎月 第1木曜日

17:00~18:00 ON AIR

6月6日OA。
令和初て〜げドクターKは珍しく華やかな顔ぶれとなりました。2019年度4月より腎臓内科として赴任された江田先生の男前すぎる生きかたに、アナウンサーの渡辺さんも思わず『惚れた!』の一言でした。
内視鏡センターの多原さんは学生時代400mハードルでインターハイに出場した経験を、玉城大樹さんは幼いころ野山でダチョウを追いかけた懐かしい思い出を語ってくれています。



第197回 同仁病院ゴルフコンペ 結果報告

日時：令和元年5月15日 6:50スタート
場所：パームヒルズゴルフクラブ



▲令和最初の同仁病院ゴルフコンペ 参加メンバー



▲「自分の時代が来た!」と話す豊島部長

優勝 豊島 亮 (企画戦略部 部長)

コメント 令和元年初という記念すべきゴルフコンペで優勝、取切杯優勝の2冠を達成する事が出来たのは、山川参与をはじめ一緒に回ってくれたメンバーのおかげです。心より感謝します!ありがとうございました。次回も優勝目指して頑張ります!

- 2位 稲福邦男 (情報技術室)
- 3位 玉城大樹 (内視鏡センター 副主任)



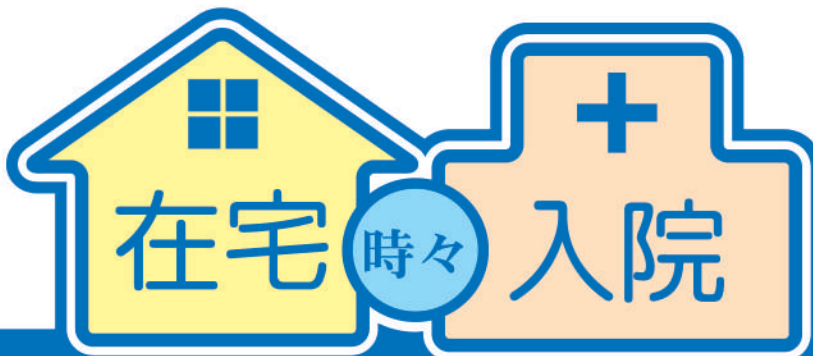
▲嬉しい結果となった稲福氏



▲ゴルフ歴は伊達じゃない玉城副主任

<ドラコン>		<ニアピン>	
No. 5 長濱伸幸	No. 3 水口健二郎	No. 11 山川岩美	
No. 15 前田 実	No. 6 西江昂平	No. 13 小林秀彰	

ご存知
ですか？



レスパイト入院（介護家族支援短期入院）

レスパイト
入院とは？

在宅療養されている患者さんのご家族を支えることを目的とした入院。様々な事情で在宅生活が一時的に困難となった場合に入院していただくことを「レスパイト入院」といいます。

主 な
利用条件

- 退院後、ご自宅又は介護施設に帰る方がご利用できます。
 - 褥瘡処置、たん吸引、麻薬の管理、胃ろう、気管切開、在宅酸素など医療行為のある方もご利用できます。
 - 1回の入院期間は、14日間までです。
 - 退院から3カ月の期間を空けることで、何度でもご利用できます。
 - 基本的に一般検査は行いません。
 - 入院の際は、お薬を持参してください。
 - 患者さんの状態によっては、入院期間を短縮する場合があります。
 - 医療保険の適応となります。
- ★その他、詳細につきましてはお問合せ下さい。

お問合せ

同仁病院 地域医療連携室 受付 9:00~17:00
休診日 水曜日、日曜日（午後）、祝祭日
TEL 098-870-5375 / FAX 098-874-7033

嚥下外来の受付しています。

「最近ムセる事が多くなった」「飲み込むときに違和感を感じる」「食欲もなくなってきた」
…気になるはじめたら、当院の嚥下外来までお気軽にご相談下さい！

一般だけでなく施設利用者の嚥下機能評価や
通院による嚥下リハビリなどにも対応します！

受付：同仁病院 地域医療連携室
TEL 098-870-5375 / FAX 098-874-7033

発行者



医療法人八重瀬会 同仁病院

企画室 広報誌制作チーム

〒901-2133 沖縄県浦添市城間1-37-12
TEL 098-876-2212 FAX 098-876-4209



■編集後記

今年も約60名もの新入職員が入職しました。
私が入職したのは今から約2年前・・・。
当時の記憶は緊張していたことだけが鮮明に残っています。
毎年のことではありますが今年の新入職員オリエンテーションでも新入職員の緊張した面持ちは当時の記憶を蘇らせてくれます。 [平]

f 八重瀬会 同仁病院
facebookページ

